

アジア・世界とつながる四国瀬戸内No.1の国際空港

複数のLCCの拠点化を進め、旅客数307万人を達成



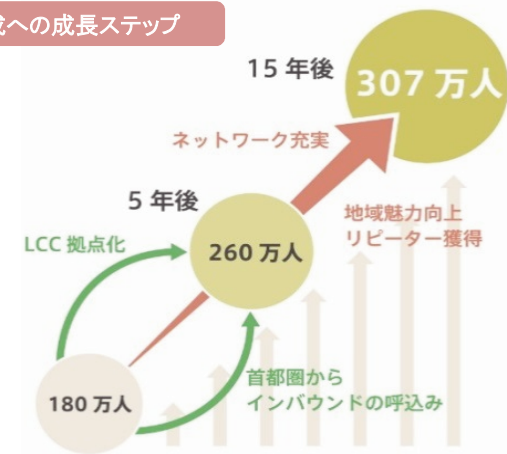
旅客数 **307** 万人 (国内 225 万人、国際 82 万人)
 路線数 **13** 路線 (国内 6 路線、国際 7 路線)
 便数 国内 **23** 便/日、国際 **51** 便/週
 貨物量 **1.7** 万トン

- ＜将来イメージの実現に向けて＞
- 複数のLCC拠点化に向けた料金施策と受入環境整備
 - 海外や首都圏需要をターゲットとした航空需要の取り込み
 - 魅力的な商業施設づくり
 - 長期にわたる、安全・安心な空港インフラ経営
 - エリアの魅力を高める地域との協働体制

旅客数・貨物量の目標値

	2015年 (現在)	2022年 (5年後)	2032年 (15年後)
旅客数	180 万人	260 万人	307 万人
国内	165 万人	209 万人	225 万人
国際	15 万人	51 万人	82 万人
貨物量	0.6 万トン	1.3 万トン	1.7 万トン

307万人達成への成長ステップ



航空ネットワークの拡大

ターゲット設定

国内線

- LCC拠点である幹線空港（新千歳・成田・福岡等）への新規就航・増便
- 羽田路線の機材大型化

国際線

- 台北・上海・ソウル・香港路線のデイリー化
- 東南アジア（タイ・シンガポール）への直行便の新規就航



料金施策

- 四国瀬戸内エリア最安値の料金設定
- LCCの就航意欲を喚起する料金割引
- エアラインと空港とのリスクシェア

エアラインマーケティング

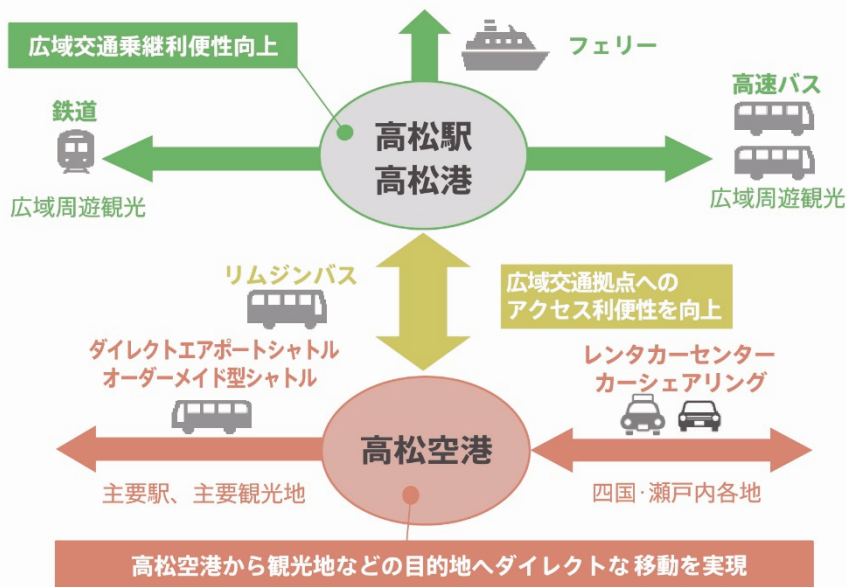
- 就航時に必要な各種調整事項のワンストップサービス
- 海外空港オペレータと連携したエアライン誘致
- クリーンエリアへの早期の旅客誘導による、定時運航への貢献

ボトルネックの解消

- 搭乗ゲート・スポットの拡大（6スポット → 8スポット）
- LCC対応のスポット・搭乗施設の新設
- 国際線手荷物受取場の処理能力の拡大（同時対応 1便 → 2便）
- 駐車場容量の拡大（約1,000台 → 約1,300台）

空港アクセスの強化

- 高松空港と高松駅・高松港のアクセスを強化し、個人旅行者等の利便性を向上
- 高松空港から観光地へのアクセス性を高め、広域周遊観光を促進



長期の安全・安心な空港インフラ経営

設備投資

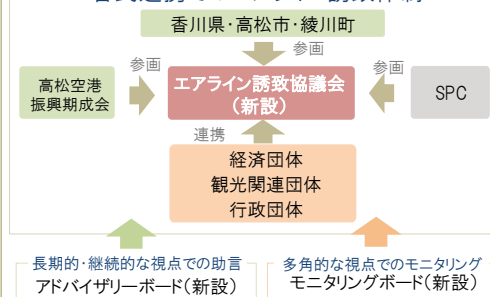
- 安全性の維持、要求水準の遵守を「マスト」とし、効率性も兼ねる「ベスト」な設備投資

事業実施体制

- 円滑な事業承継を最優先とした実施体制の構築
- 安心安全と持続的な成長の両立を可能とする要員配置と支援体制
- 運航情報官・保安防災・施設運用が一体となったオペレーション体制
- 安全を最優先とする企業文化の醸成と教育制度の整備
- 多層のセルフモニタリング体制

地域との協働体制

官民連携でのエアライン誘致体制



地域共生

- 地域の負担を軽減し、地域共生事業の拡充・継続
- 地域から愛される空港を目指し、イベント等を開催

空港利用促進

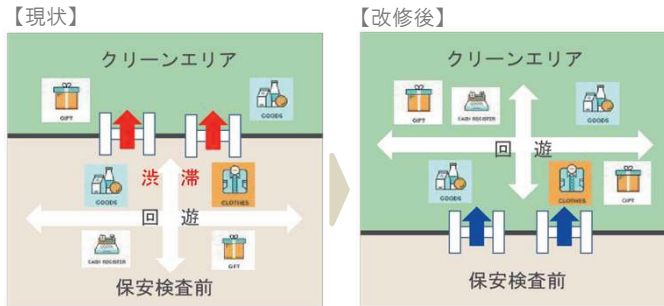
- 各種の協議会・ボードによる関係地方自治体との連携体制の構築
- 官民連携による航空需要の拡大施策の実施

魅力的な商業施設づくり

旅客ビル施設

- 四国瀬戸内ブランドを発信する物販・飲食店舗の拡充
 - ・地元食材を使用したメニューを提供するフードコート
 - ・香川、四国、瀬戸内の名品を集めた土産店舗
- クリーンエリア内商業スペースを拡大し、搭乗時刻の直前まで楽しめる空間づくり
- 時間帯により変化する顧客ニーズに応じた商品・サービスの提供
- 免税店舗の拡張
 - ・ウォークスルー型免税店舗

クリーンエリア拡大の考え方



商業施設の拡大



フードコート(クリーンエリア内)のイメージ



屋外での賑わい創出

- イベントスペースの設置
- 空港内アクティビティ施設の設置
- 周辺公園との連携

利用者満足度の向上

分かりやすさ

- インフォメーション機能の強化(到着階)
 - ・多言語対応、チケット販売、二次交通案内等
- サインや動線の見直し

快適性

- スムーズな搭乗をサポートする保安検査ブースの増強
- 旅客の多彩な過ごし方を可能とするゾーニング
 - ・空港ラウンジ、ライブラリー空間の新設等
- 国内線・国際線出発ラウンジの快適性向上
 - ・家具等の入替、リニューアル等

到着階(1階)のイメージ



空港ラウンジのイメージ

